



ナガエツルノゲイトウ (特定外来生物)にご注意ください!!

- ・河川、水路、水田などで生育し、大群落になると駆除は極めて困難。
- ・繁茂による稲の倒伏、減収、機械の作業性の低下に繋がる。
- ・特定外来生物に指定され、生きた個体の保管・運搬等は原則禁止(裏面参照)。

ナガエツルノゲイトウ (ヒユ科)

- ・南米原産の多年草。
- ・水草で、河川等から水路、水田、湖沼などに侵入する。
- ・茎が千切れやすく、節や根から活発に再生する。
(日本国内の系統は種子をつけない)
- ・夏～秋を中心に球状の白い花をつける。



繁殖力強



直径1～1.5cm
の白い花

1～4cmほど
の長い花柄



侵略性強



再生力強

節から根が発生

ナガエツルノゲイトウは、定着すると駆除が困難なので**早期発見・早期駆除**が重要になります。

発見したら、裏面お問合せ先まで連絡をお願いします。

ナガエツルノゲイトウを防ぐために（農地編）

① 刈払い機等による機械除草は行わない

刈り払いによって断片が農地に拡散する恐れがあるため、定着が見られる畦畔では除草剤中心の管理を行います。

② 除草剤による処理

水田内、畦畔で使用可能な除草剤を使用し防除を行います。

③ 抜き取り・剥ぎ取りによる駆除※

生育初期に除去することが有効です。断片が残らないように駆除作業を行い、周囲に流出しないように密閉し、その場で枯らすか、焼却処分場で処分します。

※ ナガエツルノゲイトウは特定外来生物に指定されているため、飼養・栽培・保管・運搬は禁じられていますが、小規模な防除の場合、防除目的の運搬は事前に防除の内容等を公表すれば可能（ただし農業を営むに当たって行う防除の場合の公表は不要）。詳しくは下記にお尋ねください。

④ 水田内への侵入阻止

農業水利施設は、水路を介して農地と繋がることから、給水口にネット等（4mm目合）を取り付け、侵入を防止します。

ナガエツルノゲイトウは、**拡大力、再生力**が非常に強く、断片からも再生するため、**粘り強い対応**が必要です。

【使用可能な薬剤の例※】

！注意！河川敷や水路など水系に流出する恐れがある場所では使用できません！

水田内	薬剤名	使用時期	本剤の使用回数
	ロイヤント乳剤	移植後20日～ルビI5葉期但し収穫45日前まで	2回以内
畦畔	ウィードコア1キロ粒剤	移植後7日～ルビI4葉期但し収穫60日前まで	2回以内
	ラウンドアップマックスロード	収穫前日まで（雑草生育期）	3回以内
	ザクサ液剤	収穫7日前まで（雑草生育期）	2回以内
	タッチダウンiQ	収穫14日前まで（雑草生育期）	2回以内

（※令和5年7月11日現在）

○農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。

○農薬の使用に際しては、以下のホームページで御確認ください。

農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>

【お問合せ先】

埼玉県農産物安全課 048-830-4053

埼玉県病害虫防除所 048-539-0661

上記または、最寄りの農林振興センターに御連絡ください。 令和5年7月作成